

雪割草栽培の基本

雪割草栽培は、置き場所選びが重要なので、はじめのうちは、数カ所に置いて管理し、よくできる場所を探しましょう。

置き場所

風通し良く、雨の当たらない日陰に置きます。風通しは年間を通して必要です。特に梅雨期や高温期には、風をよく通し蒸れを防ぎます。風通しは扇風機で葉が揺れるほど当てるのではなくて、栽培棚の空気を動かし、入れ替えるという換気のイメージです。

日照を遮るため、棚下に置く場合もありますが、雨が当たらず、地面の水の跳ね返りがないことが条件です。雑菌の入る恐れのある場所は極力避けましょう。無理に棚下へしまい込むよりは、風通しの良い棚上で日照を遮る方法を考えたほうが賢明です。

基本的に直射光は必要ありません。ただし、新葉展開時のまだ葉が柔らかく艶のある時期は直射光に当てたほうが葉が強く丈夫になります。葉が固まってからは、建物の陰、樹木の陰、寒冷紗の下など常に日陰になるような場所に置きます。

水やり

雪割草は水を好む植物です。鉢土表面が乾いてきたら、鉢穴から水が流れ出るまでたっぷりと与えるのが基本です。

水やりで特に注意したいのは、高温期の過湿と冬期の乾燥です。高温期は遮光をしているので、鉢の乾きは緩慢になります。乾き具合をよくみることが大切です。高温による蒸れが怖いので乾き気味にします。冬期は自生のある北陸地方では多雪により、湿度が高く維持されています。逆に関東地方などでは、乾いた寒風が吹き、湿度はグッと低くなります。雪割草の鉢も乾きやすくなるので、水やりのほかに葉水や棚

周りの散水もこまめに行い、湿度を高く保つことが必要です。花時期に高い湿度が保てると、伸びやかな大輪花や小花弁のよく開く三段咲きを咲かせることができます。

用土

植え込み用土は特に選びません。鹿沼土単独で植えている方もいますし、自分の管理に合わせ、数種類を混合して使用している方もいます。共通する点は中粒程度の粗い用土を使って水はけよく植え付けることです。混合用土の一例を示すと、日光砂・硬質鹿沼土・桐生砂・軽石などの混合です。根腐れ防止に炭炭を入れることもあります。

肥料

肥料の与え方によって作が大きく異なります。基本的には春と秋の彼岸頃に三要素バランスのよい肥料を与えれば良いのですが、さらに上を目指す場合は、生育に合わせた施肥管理をします。葉の伸びる春はチッ素系。葉の展開が終わり株の中央に小さな花芽らしきものが見えたらリン酸系。秋にはバランスのよいもの。と使い分け、さらに活力剤も併用すると、花の時期には作が見違えているはずだ。

薬剤散布

雪割草によく知られる病虫害にハダニと炭素病があります。ハダニは乾燥高温の時期に発生しますので、予防も兼ねて6月下旬頃から殺ダニ剤を散布します。ハダニの抵抗性を考慮して複数種類の殺ダニ剤を準備しておくといでしょう。炭素病は高温期に風通しが悪く蒸れるような環境で発生します。ベンレートやダコニールなどの殺菌剤で防除できます。最近では、ストロビーフロアブルが予防に効果的とされ、多くの愛好者が使用しています。

雪割草の年間管理表

	生育	灌水	日照	薬剤散布	植え替え	肥料 活力剤	主な作業と注意点
1月		乾燥厳禁・湿度高く	半日陰程度				●乾いた寒風や霜に当てると葉が傷む。防風・防寒対策 ●雪国をイメージし湿度を高める工夫を
2月							●開花始め ●灌水時、花に水をかけないように。株元に水挿しして ●湿度を高く維持し、大きく伸びやかな花を
3月	花期						●開花最盛期 ●交配するものは忘れずに。交配しない花は傷む前に花柄摘み
4月	新葉展開	乾いたら与える・過湿に注意	新葉展開時は 全日照も可	新葉展開と共に予防も兼ねて殺菌・殺虫・殺ダニ剤を適宜散布	春の植え替え	窒素系の肥料 新葉展開と共に	●花後すぐに新葉が展開。花柄・古葉は切り取る ●チッ素系の肥料を与える ●新葉はよく日に当てる
5月	花芽形成						●葉が固まったら植え替え適期 ●日射しが強くなってきたら遮光の準備 ●クネが充実してくるので、採り播きにするとい
6月						通年でも良いが、夏場の活力剤は効果的	●高温多湿の時期は風通しをよくして、蒸れを防ぐ ●葉の生育が止まった時点でチッ素系の施肥を止めリン酸、カリ主体の液肥を与える
7月		乾き気味に・蒸れに注意					●思い切った遮光をして葉焼けを防ぐ。直射日光に当てない ●病害虫の活動が盛んになるので、薬剤散布を月に2回ほど行う
8月							●夏本番。引き続き遮光。風通しよく ●気温が上がるときは灌水時に葉水をすると効果的 ●活力剤を与えると夏バテにくい
9月					秋の植え替え		●涼しくなってきたら植え替え・株分けの適期。●秋の施肥を行う。三要素バランスのよい肥料を
10月	充実期	乾いたら与える				三要素バランスのよい肥料	●充実期。花芽が膨らんでくる ●植え替えは中旬までに済ませる
11月			半日陰程度				●少しずつ日照を採るようにし、花芽の充実を図る ●寒冷地では寒風が吹くので、風よけがあるとよい
12月		乾燥厳禁 湿度高く					●比較的温度には強いが、強い凍結は避ける ●凍らせないように注意しながら、ときどき葉水を与え湿度を高く維持する